特集2

ゴルフ振興推進本部本格稼働から1年
ゴルファーを増やすための さまざまな取り組みと今後の展望

ゴルフの普及振興を推し進めるためにJGAが設置したゴルフ振興推進本部が本格稼働して1年が経ちました。
同本部は具体的にどのような活動を行ってきたのか。
この先、どんな活動を目指しているのか。
ゴルフ振興推進本部本部長を務める山中博史JGA専務理事に聞きました。

―― ゴルフ振興推進本部の成り立ちと役割をお聞かせください。

山中　JGAは元々、アマチュアの競技団体という色合いが強い組織でした。そこから、すべての活動をゴルフの普及振興にひも付ける形に定款を変更したのが3年前の2021年です。少子高齢化の時代、この先どのようにゴルファーを増やしていくのかが普及振興のカギになってくるわけですが、それをJGAだけでなく全国8つの地区連盟やプロ3団体、全日本ゴルフ練習場連盟や日本ゴルフ用品協会などゴルフ関連各団体と一緒になって考えていこうと立ち上げたのがゴルフ振興推進本部です。その中に「ゴルフと健康部会」「女性とゴルフ部会」「情報シェアリング部会」という3つの部会をつくり、昨年はこの3部会が本格的な活動を始めた年でした。

―― まず「ゴルフと健康部会」についてですが、どのような目的でつくられたのでしょうか。

山中　「ゴルフと健康」は世界のゴルフ界が力を入れて取り組んでいるテーマです。たとえばR&Aでは数年前からイギリス政府や学者の協力のもとでゴルフがいかに健康に貢献しているかというエビデンスを出しています。日本ではKGA（関東ゴルフ連盟）がWAG（ウィズ・エイジングゴルフ協議会）というゴルフと健康に関する事業に長年取り組んでいましたが、それをJGAゴルフ振興推進本部で引き継いだ形になっています。「ゴルフと健康部会」はゴルフをすることで健康寿命が延び、ゴルフを少しでも長く続けられる、結果として医療費削減に役立つ、あるいはお年寄りの孤立化を防ぐ効果などを研究し、ゴルフが国民のみなさんの生活にいかに貢献しているのかということを知っていただこうというものです。

―― 具体的にはどのような活動を行っているのでしょうか。

山中　「JGA WAGスクール」というゴルフ未経験者でも参加できる健康維持推進のための8日間のスクールをKGA時代から実施しています。このJGA WAGスクールを1日で体験してもらえる1Dayプログラムをつくり、9月の日本シニアオープン（9月14～17日、能登CC）の週を「ゴルフ健康週間」として日本シニアオープンの会場をはじめ全国24会場で実施し、同スクールのPRを行いました。また、日本シニアオープンの会場では健康のために歩いて観戦していただこうという趣旨でスタンプラリーを行いました。総入場者の約20%にあたる814人が参加してくださり、非常に好評でしたね。11月にはJGA WAGスクール卒業生で構成するWAGクラブの第1回イベントとしてラウンド会を日高CC（埼玉県）で行い、卒業生同士のコミュニケーションを図りました。

―― 次に「女性とゴルフ部会」の目的と活動内容をお聞かせください。

山中　R&Aでは女性のゴルフ参加率、プレーだけでなく組織の運営などへの参加率も含めたものですが、これを増やしていくための「女性のゴルフ振興憲章」を設けています。JGAも賛同し2019年に署名しました。女性ゴルファーを増やし、女性が活躍する場を増やすことは世界的な流れであり、ゴルフ振興推進本部でも柱のひとつとして「女性とゴルフ部会」を設置しました。まず組織としては2022年のJGA役員改選時に女性理事の比率を13%から30%に増やしました。今年6月の改選時にはさらに増やす予定です。一般ゴルファーに向けた活動としては、昨年WOMEN'S GOLF DAY（以下WGD）を実施しました。WGDは女性にゴルフを始めてもらうきっかけづくりやゴルフを継続してもらうことを目的とした世界的なイベントです。2016年にアメリカで制定されたもので毎年6月の第1火曜日に世界各地で開催されています。このWGDを日本流にアレンジして昨年初めて実施したのです。1年目ということで登録費用はJGAが負担し、ゴルフ場、練習場など217の施設でイベントを行いました。

―― プロゴルファーやトーナメントの主催者も協力してくれたようですね。

山中　はい。当該週に行われた女子ツアーの宮里藍サントリーレディス会場で「WGDレッスン会」を開き、宮里藍さんや横峯さくらさんも来てくださいました。その前週のヨネックスレディスでもWGDの告知やイベントをしていただきました。男子ツアーでは日本ゴルフツアー選手権で女性の入場を無料にするなどさまざまな形で協力していただきました。WGDは1年目から非常に反響があって、みなさん「ぜひ来年も」と言ってくださり、成功だったと感じています。

WOMEN'S GOLF DAY

JGA主催のWGDレッスン会 in 宮里藍サントリーレディースオープンを開催。横峯選手も特別参加。参加者から大反響だった

JGA WAGスクール

健康維持推進のための「JGA WAGスクール」の体験版1Dayプログラムを日本シニアOP会場をはじめ全国24会場で実施。未経験者や初心者を対象とした内容で好評を得ている

日本女子OP開幕前に開催された歴代優勝者による特別レッスン会
写真（上）塩谷育代プロ　写真（下）服部道子プロ

―― 日本女子オープンの週にも女性向けのイベントを行ったと聞きました。

山中　昨年の日本女子オープンは福井県での開催だったのですが、開幕前の火曜日に福井市内の練習場で塩谷育代プロ、服部道子プロ、馬場ゆかりプロ、宮里美香プロの歴代優勝者4人による「特別レッスン会」を行い、10代から70代まで20人の女性ゴルファーが参加してくださいました。

―― このような活動の情報を発信していくのが「情報シェアリング部会」ですね。

山中　そうです。ゴルフ界はさまざまな団体がさまざまなゴルフ振興策を講じていますが、理想はひとつにまとまって活動することです。普及振興活動に関する情報をまとめ、発信するプラットフォームを構築するのが「情報シェアリング部会」の役割。一昨年末に「JGAゴルフ応援サイト」をスタートさせてゴルフ関連団体やゴルフ場のみなさんに普及振興の情報を投稿していただき、広く発信できる形をつくりました。2023年末時点で登録アカウントが1,154あり、うちゴルフ場は約1,000に達しています。ただ、まだまだ投稿数もアクセス数も少ないのが現状です。

―― 本格始動2年目を迎える2024年、各部会それぞれどのような展開を考えていますか。

山中　まず「ゴルフと健康部会」ですがJGA WAGスクールを全国展開で広げていきたいと考えています。そのためには各地区連盟や各団体のみなさんにお願いしてこの活動を強く推していける形にしたい。1Dayプログラムもありますから、まず経験していただきたいですね。それから、昨年の日本シニアオープン会場で開催したスタンプラリーは評判が良かったので今年は日本オープンと日本女子オープンの会場でも実施しようと考えています。両大会はギャラリー数も多いですし、今年は比較的フラットなコースで開催されますから歩きやすいと思います。余談ですが、ギャラリーとして18ホール歩くと10,000～11,000歩を歩くことになります。ぜひ多くの方に参加していただきたいですね。

―― 「女性とゴルフ部会」はいかがでしょう。

山中　今年も6月のWGDを実施しますが、たとえば春にこのイベント、夏にはこのイベント、秋には……というように年間を通した活動ができるように企画を練っているところです。

―― 現在、女性ゴルファーの割合は全体のどれくらいでしょうか。

山中　以前より増えて18～20%くらいになったのではといわれています。最近の女子プロゴルファーは注目されていますし、ファッションもおしゃれな選手が多いので、そういったことが若い女性でゴルフを始めようという方が増えた一因になっているのではないでしょうか。ただ、まだまだ女性が少ないのが現状。より活動に力を入れて女性ゴルファーを増やす努力を続けていきたいと思います。また、より広く活動を知っていただくために、我々の取り組みのスローガンとロゴマークを作製中です。「ゴルフと健康部会」ではすでにポスターやポップをつくって全国のゴルフ場に配布させていただいたのですが、評判がよくていろんなところで掲示してくださっています。

コース内18カ所をめぐるスタンプラリー「ごる印めぐり」

全国のゴルフ場に配布されているゴルフと健康の卓上POP

JGAゴルフ応援サイト

ゴルフ関連団体やゴルフ場から
普及振興の情報を広く発信

ゴルフ場で取り組まれている子供・女性・高齢者向けの地域貢献活動やゴルフ業界に関わる方のインタビュー記事が投稿されている

―― 「情報シェアリング部会」のテーマは先ほどおっしゃったように「JGAゴルフ応援サイト」への投稿数やアクセス数を増やすことでしょうか。

山中　「JGAゴルフ応援サイト」を開設して1年間の投稿数は297、閲覧者数は約2万人でしたから理想よりひとケタ、ふたケタ少ないと感じています。基本的に投稿していただける内容はゴルフの普及振興に関するもの。たとえばゴルフ場で取り組んでいる子供向け、女性向け、あるいは高齢者向けのイベントや地域貢献活動などを投稿していただく形です。それを他のゴルフ場の方が見て「こんなアイディアがあるんだ、うちでもやってみよう」と参考にしていただくこともできると思います。それに、ゴルフ業界に関わるさまざまな方のインタビュー記事なども掲載していますが、もっと幅を広げていきたい。たとえばスポーツ選手や著名人に協力していただくということも考えたいですね。もっとうまくPRして「JGAゴルフ応援サイト」を知っていただくことが課題です。

それと何よりもゴルフのイメージアップを図ることが大切です。これだけゴルフというスポーツが多くの人にプレーされ、国民の健康や地域社会や振興に寄与していている一方で、未だにゴルフは贅沢な遊びだというイメージを持たれている。そのイメージを払拭することが、我々が長年に渡って訴えているゴルフ場利用税問題や、国家公務員倫理規程の打破に繋がっていくのだと思います。

―― これらの活動をより発展させていくためにはゴルフ界全体の協力も重要になってきますね。

山中　はい。日本にはJGA加盟倶楽部のメンバー以外にもたくさんのゴルファーがいます。パブリックコースや練習場、或いはシミュレーターでのゴルフを楽しんでいる方も大勢います。今年は日本パブリックゴルフ協会にもゴルフ振興推進本部に入っていただいて一緒にゴルフの普及振興を進めていく予定です。普及振興活動は時間がかかるかもしれませんが、ゴルファーの数が増えなければ、競技をする人もハンディキャップを取る人もいなくなり、JGAの存在価値がなくなってしまいます。JGAはすべてのゴルファーのためにあるのだという意識を役員、委員、職員とも共有しながら普及振興活動に取り組んでいるところです。